

授業科目名	作曲理論Ⅳ	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	高橋 裕	単位	2	年次	2, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

作曲を学ぶ者が必ず身につけなければならない和声学と対位法を学ぶとともに、ロマン派から近代音楽に至る室内楽や管弦楽団作品をアナリーゼし、自らの創作に生かしていく。

＝履修の条件と学習の方法＝

毎回、和声課題や対位法課題を家で実習したのを見るとともに、授業で室内楽や管弦楽をアナリーゼしていく。わからないことがあれば常に質問をし、理解をしていくように。

＝授業の概要＝

フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼから、ロマン派の管弦楽、近代フランス音楽の管弦楽のアナリーゼまで学びながら、フーガの作曲を試みる。

＝授業計画＝

- 1 回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その1）。
- 2 回 フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その2）。対位法実習。
- 3 回 フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その3）。対位法実習。
- 4 回 フランス近代音楽の歌曲のアナリーゼ（その1）対位法実習。
- 5 回 フランス近代音楽の歌曲のアナリーゼ（その2）対位法実習。
- 6 回 フランス近代音楽の歌曲のアナリーゼ（その3）対位法実習。
- 7 回 ロマン派の管弦楽のアナリーゼ（その1）学習フーガの実習。
- 8 回 ロマン派の管弦楽のアナリーゼ（その2）学習フーガの実習。
- 9 回 ロマン派の管弦楽のアナリーゼ（その3）学習フーガの実習。
- 10 回 フランス近代音楽の管弦楽のアナリーゼ（その1）学習フーガの実習。
- 11 回 フランス近代音楽の管弦楽のアナリーゼ（その2）フーガの作曲。
- 12 回 フランス近代音楽の管弦楽のアナリーゼ（その3）フーガの作曲。
- 13 回 フランス近代音楽の管弦楽のアナリーゼ（その1）フーガの作曲。
- 14 回 フランス近代音楽の管弦楽のアナリーゼ（その2）フーガの作曲。
- 15 回 フランス近代音楽のピアノ曲のアナリーゼ（その3）提示部の創作

＝テキスト（必携）＝

新しい音楽通論 菊本哲也著 全音楽譜出版社

＝参考書・参考資料（必携）＝

アナリーゼの楽曲の楽譜はこちらで用意する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

フーガの提示部を提出する。50%
楽曲のアナリゼを行う。50%

=その他=